

第1問

正典

「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（文部科学省 平成三〇年七月）

【会話文】（オリジナルの文章）

【資料①】石垣島での修学旅行感想文（オリジナルの文章）

【資料②】【資料③】日本修学旅行協会「教育旅行年報 データブック2017」

解説

■出題のねらい

共通テストでは、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面など、学習の過程を意識した場面設定を重視した出題が予想される。これに従い、今回は高等学校学習指導要領で取り上げられている「特別活動」の中の「旅行・集団宿泊的行事」の一つ、高校生にはなじみ深い「修学旅行」に関する集団討論と資料から、〈今後の修学旅行のあり方について考えさせる〉というテーマ設定で、読解力および記述力を試す問題とした。

高校生活最大のイベントと思われる修学旅行のあり方について、生徒の感想文や統計グラフから現代的な特色を見出し、理解を深め、答案に反映させてほしい。一般的な入試に登場する評論文とは異なり、実用的な文章と会話文という形式に戸惑うかもしれないが、難解なものではない。身近な話題について柔軟に対処できるだけの力を備えておきたい。

【概要】

会話文における発言の要旨を話者ごとに箇条書きでまとめると、次のようになる。

- ・金沢…私たちは昨春秋、奈良・京都の修学旅行を満喫した。
- ・水戸…神社やお寺ばかりで飽きた。
- ・宮崎…修学旅行の最大の目的は、集団活動を通して人間的に成長することだから、自分にとって興味のない場所に行くことにも意味がある。
- ・長野…人間的に成長するためには、興味関心やモチベーションが必要だ。
- ・松山…修学旅行に体験学習を取り入れる学校が増えてきている。これまでの生活環境とは異なる場所での体験は、刺激的で有益だ。
- ・大坂…体験学習の人气が見学活動を追い抜く日も近そうだ。
- ・水戸…新しい体験が得られる修学旅行では、視野を広げて自分や世界を見つめ直すことができる。
- ・宮崎…集団のルールを守り、他の仲間と協調して信頼関係を深めていく訓練として、修学旅行に参加するべきだ。
- ・長野…修学旅行では「班別の自主行動」が一般的になっており、集団の規律や人間関係はあまり意味をもたなくなるのでは。
- ・松山…修学旅行の傾向は「班別の自主行動」による「体験学習」に移ってきているが、「教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験し、楽しい思い出をつくることができる」という従来の姿を忘れてはならない。

問1 《傍線部の内容説明問題》

(正答例) 自然や文化に触れる体験を通して、学習活動を充実発展させる(こと)。(28字)

傍線部の内容について、冒頭にある「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」(以下、「指導要領解説」)から同内容の箇所を探して記述する設問である。共通テストの特徴の一つである【複数のテキストの比較】という方針に従って設定されている(もつとも、記述問題は原則的に、文中で用いられている語句を利用して答えるべきである)。

まず、傍線部の水戸の発言にある「観光を通じて……学びが深まるような活動を設定する」という発言内容を吟味しよう。「観光」とは(他の国や地方の風景・史跡・風物などを見物すること)である。また、学校における「学びが深まるような活動」とは、「学習活動」そのものにも他ならない。

これらの内容と最もよく対応している部分を「指導要領解説」の中に探すと、

・「校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させる」(ℓ2・3)
 ・「自然や文化・社会に親しみ、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとする態度を養う」(ℓ20～22)
 とある。

これらを元に、

(1) 「観光を通じて」に対応する) 「自然や文化に触れる体験を通して」あるいは「自然や文化・社会に親しみ」といった要素

(2) 「学びが深まる」に対応する) 「学習活動を充実発展させる」あるいは「学習活動の意義を考え」といった要素

の二点を取り込みながら、できるだけ三十字に近い字数に調整して答えればよい。

(1)については、「自然などに」とまとめるのは許容だが、「自然の中で」などと一つの要素に限定したものは不可。また、「日常と異なる環境の中で・校外での体験を通し」などとするのみで、それがどのようなものであるかの具体性を欠くものも不可。

(2)については、「充実」「発展」は一つあれば可。また、「学習活動の成果を活用する」(ℓ18)の部分を使って言い換えたものも可。「集団活動・社会生活・人間関係」などに限定し、「学習」に触れていないものは不可。

問2 《資料③》の内容把握問題

(正答例) 前者が一位であり続けているのに対して、後者は全項目の中で最も順位を上げている(38字)

図表などのデータの読み取りも、共通テストのポイントの一つとなっており、二〇一七年七月に公表された「共通テスト実施方針」では「情報を編集して文章にまとめること」に関わる能力の評価を重視するとうたわれている。

空欄のある大坂の発言は、「資料③」の『重点を置いた活動内容』のアンケート結果に即して述べられており、空欄には『遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学』(前者)と石垣島の民泊のような『いなか暮らし体験』(後者)について、それぞれ他の項目には見られない特徴に注目して前々回から今回まで「比較してわかった内容が入ると考えられる」。

そこでまず、「資料③」の「遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学」の項目を見ると、ずっと一位を維持していることに気づくだろう。

一方、「いなか暮らし体験」は、「産業や産業遺産の見学」「その他のスポーツ」などとともに関位を上げていることがわかる。大坂は空欄に続けて、「体験学習が見学活動を追い抜く日もそう遠くなさそう」と発

言しているのだから、空欄には「いなか暮らし体験」という「体験学習」の順位の上昇を指摘する言葉が必ず入ると予想できる。しかもよく見ると、「いなか暮らし体験」は前々回が17位、前回が13位、今回が7位と上昇を続けており、全項目中、最大の伸び率を示している。

以上から、空欄に入るべき内容は、

(1)前者(「遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学」)が、三年間変わらずに一位であること

(2)後者(「いなか暮らし体験」)は、全項目中で最大の順位の伸び率を示していること

の二点にしなければよい。大坂の発言の重心は(2)にあるが、(2)を強調するためにも(1)は必要である。

(1)については、三年間ずっと「最高位」であることを指摘すれば可だが、「高い順位・高位」では不可。

(2)については、単に「急激に順位を上げた」だけではなく、その(上昇率が最大)であることを指摘したものを可とする。

問3 《会話文》 全体の内容把握問題》

(正答例) 集団活動における人間的な触れ合いを通して、規律や公衆道徳、責任感や協調性などを身につけることで、人間的に成長できる。

さらに、日常の生活環境とは異なる自然や文化などの中で新鮮な体験をすることで、視野を広げ、自分や世界を見つめ直すことができる。

(120字)

空欄には、修学旅行委員会の委員長である金沢が、松山先生の言葉を受けて、「修学旅行の今日的な意義」をまとめた発言が入る。

設問では、解答の一文目に「集団活動」、二文目に「体験」という言葉を使うように求められている。このことに注意して松山先生の発言を見ると、

修学旅行の基本は、多様な「体験」を学ぶことよりも、「集団活動」の在り方を身につけることにある
という形で要約することができる。

また設問では、一文目と二文目を「さらに」という接続語(副詞)で結ぶことが条件となっている。(AさらにB)という構文の場合、たとえば、「以前よりもさらに現在は美しい」などのように、AよりもBのレベルが上がることを示すことが多い。とすれば、

(修学旅行の今日的な意義は)「集団活動」の在り方を身につけると
いう基本がまずあって、その上に、(さらに)多様な「体験」を学ぶ
ぶことにある

という方向でまとめればよいことになる。

さて、次に「集団活動」の在り方とはどのようなものか、「指導要領解説」から該当する箇所を抜き出してみる。

・「集団活動を通して、教師と生徒が寝食を共にすることによって、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験し、楽しい思い出をつくることができる」(p3～6)

・「集団生活を通して、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、集団生活のきまりや社会生活上のルールについて考え、実践し、互いを思いやり、共に協力し合ったりするなどのよりよい人間関係を形成しようとする態度を育てる」(p6～10)

・「集団生活の在り方や社会生活上のルール、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けるようにする」(p14～16)

・「集団生活の在り方や公衆道徳について考え、学校生活や学習活動の成果を活用するように考えることができるようにする」(p17～19)

また、【会話文】には次のようである。

・「集団活動を通して人間的に成長する」(宮崎第一回)
・「集団の中でルールを守り、他の仲間と協調して信頼関係を深めてい

く」(宮崎第二回)

・「集団の中での協調性や責任感」(松山第二回)

これらの言葉から、解答に必要な要素は次の三点にまとめられる。

(1) 「集団活動」の具体的な姿」「寝食を共にする」「人間的な触れ合い」「互いを思いやり、共に協力しあったりする」

(2) 「集団活動」で学ぶもの」「信頼関係の大切さ」「生活習慣や公衆道徳」「集団生活のきまりや社会生活上のルール」「集団生活の在り方や社会生活上のルール、公衆道徳」「集団生活の在り方や公衆道徳」「ルールを守り」「協調性や責任感」

(3) 「集団活動」の最終目的)「よりよい人間関係を形成」「人間的に成長」

これらを元に、第一文は〈**集団活動における人間的な触れ合いを通して、規律や公衆道徳、責任感や協調性などを身につけることで、人間的に成長できる**〉のようにまとめるとよい。

一方、「体験」については、問1でも少し触れたが、「指導要領解説」に次のようにある。

・「校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させる」(ℓ2・3)

・「豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義を理解する」(ℓ13)

・「日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化・社会に親しみ、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとする態度を養う」(ℓ20～22)

また、「**会話文**」には次のようにある。

・「冒険と同じような新鮮な体験」(松山第一回)

・「日常から離れて新しい体験が得られる修学旅行であれば、視野を広げて自分や世界を見つめ直すことができ、将来の進路決定にも役立ちそう」(水戸第二回)

これらの言葉から、解答に必要な要素を次の三点にまとめる。

(4) 「体験」の具体的な姿)「豊かな自然や文化に触れる」「豊かな自然や文化・社会に親しむ」「日常と異なる環境や……自然や文化・社会に親しみ」

(5) 「体験」で学ぶもの)「学校における学習活動を充実発展させる」「新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考え」「日常から離れて新しい体験が得られる」

(6) 「体験」の最終目的)「視野を広げて自分や世界を見つめ直す」これらを元に、第二文は〈さらに、**日常の生活環境とは異なる自然や文化などの中で新鮮な体験をすることで、視野を広げ、自分や世界を見つめ直すことができる**〉などとまとめることができる。

実際の採点に際しては、「集団活動」「体験」のそれぞれについて、(1)～(3)・(4)～(6)の要素の2つ以上の項目に触れ、自然な文章でまとめてあれば可とする。